

「みんなで話彩や(はなさいや)チーム」 活動報告

令和7年12月20日

1

内 容

- 1 「みんなで話彩や(はなさいや)チーム」について
- 2 「みんなで話彩や(はなさいや)」の実施状況
- 3 性別によるモヤモヤ事例
- 4 話彩やの声を踏まえたアイデア・意見等
- 5 全体を通じた方向性
- 6 その他チーム活動
- 7 チーム活動を通じたメンバーの感想

2

1 「みんなで話彩や(はなさいや)チーム」について

1 概要

誰もが働きやすく暮らしやすい社会をつくるため、性別によるアンコンシャス・バイアスへの気づき、固定的性別役割分担意識の解消に向けた県民運動の一環として、「みんなで話彩やチーム」を結成し、様々な県民の方との「みんなで話彩や」を実施。

2 構成

学生、若手社会人等で構成 14名

区分	所属	人数
学生	鳥取大学、鳥取短期大学	5名
若手社会人	企業、団体等	4名
若手県職員	とっとり未来創造タスクフォース、 男女協働未来創造本部	5名



結成式(R7年5月22日)

3 活動内容

- 県民の方々と「みんなで話彩や」によるざっくばらなおしゃべりを通じて、性別役割分担意識等に起因するモヤモヤ事例や課題、解決策等の声を収集
- 収集した話彩やの声や、声を踏まえて今後必要なことや取組等のアイデア・意見等を県に伝達。
- 県やチームの取組などをSNS発信や周囲へ横展開。等

3

2 「みんなで話彩や(はなさいや)」の実施状況

【話彩やの実施状況】

地域、学校、子育て、移住、企業、農業、報道、議会等(17団体等、136名)

区分	時期	相手先	参加者	備考
自治会・町内会	4/12(土)	北栄町男女共同参画審議会	15名	※プレ開催
	7/ 5(土)	境港市公民館審議会	17名	
	8/24(日)	大塚公民館町内人権研修会	7名	
学校・教育関係	5/30(金)	倉吉総合看護専門学校	16名	
	8/26(火)	西部地区社会教育担当者研究協議会	13名	
子育て世代	6/ 4(水)	子育てグループ(株式会社めぐ)	5名	オンライン
	7/27(日)	よりん彩イベント参加者	5名	
	9/10(水)	みんなの日	5名	
	10/1(水)	女性起業家異業種交流会参加者	12名	
県内 移住者	9/20(土)	NPO法人IJU	5名	
	9/25(木)	鳥取地域おこし協力隊ネットワーク鳥の巣	3名	
県外 在住者	10/14(火)	県外在住者(若手社会人)	3名	オンライン
	10/16(木)	県外在住者(大学生)	4名	オンライン
企業 産業界	4/18(金)	鳥取県塗料商業会	7名	※プレ開催
農業関係	11/12(水)	女性農業従事者	5名	
報道関係	6/25(水)	県政記者クラブ	6名	
県議会	9/ 5(金)	地域県土警察常任委員会	8名	

※この他の機会でも声を収集

4

2 「みんなで話彩や(はなさいや)」の実施状況



自治会のみなさんと



看護学生のみなさんと



社会教育担当のみなさんと



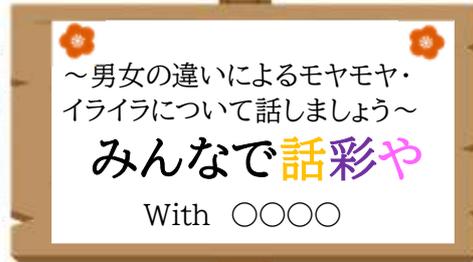
公民館審議会のみなさんと



農業女性のみなさんと



よりん彩イベント参加者のみなさんと



移住者のみなさんと



女性起業者のみなさんと



県議会議員のみなさんと



子育て中のみなさんと



県外在住者のみなさんと

2 「みんなで話彩や(はなさいや)」の実施状況

【みんなで話彩やによる事例や声の収集】

ざっくばらんなおしゃべりの中から、主に以下について聞き取り

①性別によるモヤモヤ事例

②モヤモヤの解決策や

誰もが働きやすく暮らしやすい 環境づくり



3 性別によるモヤモヤ事例

①話彩やの参加者から集めた性別によるモヤモヤ事例

《家庭・地域》

モヤモヤ

- 家の手伝いをするのは女、弟は何もしなくても何も言われない。
- 祖父母から、男なんだから就職して結婚して家族を養っていないといけなといわれた。
- 結婚直後、台所仕事を夫が手伝うことを周りにひやかされた。
- 力仕事は男性、自治会の役員は男性、「女は台所」という考えの祖母。
- 区長の選出の時、女性を選考したら、女には無理じゃないかと言われた。
- 自治会の役員や自治会の会合には男性が出席。
- 男性の威圧的な大きな声での意見が通る。対等に話ができない。

7

3 性別によるモヤモヤ事例

《職場・学校》

モヤモヤ

- 育休を申請する時、「人手不足なので(男性の)育休は2週間以内で」と会社から言われた。
- 飲食店のアルバイトで、キッチン希望していたが女性相手のほうがクレームを言いづらいからとホール担当になった。
- 女性自身が、前面に出て仕事をするのを遠慮しがちなことにモヤモヤする。
- 表彰などの際、プレゼンターの横で副賞などを用意して控える役割は、いつも女性が担っているように思う。
- 管理的な仕事をしていると、女性なのに頑張っているねと言われた。
年配の人から女の子なんだからそんなに頑張らなくていいのにと言われた。
- PTA役員は母が多いのに、会長は父。ちなみに副は母。

8

3 性別によるモヤモヤ事例



《農業》

○農業の主体は男性で、女性は手伝っていると言われることがあるが、「お手伝い」ではなくて、一緒に働いている。

○役員には男性が多く、女性の意見は夫を通して言うしかない。

○女性に役員を頼むと、夫の許可がいるなどの返事をもらうことがある。

《その他》

○スーパーに買い物に行った際、他人から「なんで男性が買い物をするのか」と嫌味を言われた。

○近所のおじいちゃんから、そろそろ結婚して、子どもを、と言われた。放っておいてほしいと思った。

○単身赴任は男性がするものとの思い込みがある。私(女性)が単身赴任中だと言うと、男女を問わずいつも驚かれる。

○女性なのに、何で免許はATでなくMTを取ったの？何で軽自動車でなく普通車に乗るの？と言われた。

性別によるアンコンシャス・バイアスや固定的性別役割分担意識等により生み出される
モヤモヤ事例は、家庭・地域・職場・学校など様々な場面で多数存在

4 話彩やの声を踏まえたアイデア・意見等

②モヤモヤ解決や誰もが暮らしやすく働きやすい環境づくりに向けて、話彩やの声をヒントに、メンバーが考えた、今後必要なことや取組についてのアイデア・意見等

《性別役割分担意識》

「話彩や」での声	声を踏まえたメンバーのアイデア・意見等
『職場などで勝手に役割分担されることがあった。役割はそれぞれのコミュニケーションの中で納得し合うことができるかが大事。』	他者と役割分担する上で、自分の得意・不得意を理解し、共有(対話と相互に理解)することが必要
『アンコンシャス・バイアス等に日常生活の何気ないところで気づけるような仕掛けを。(日めくりカレンダーなど)』	啓発ツール・グッズ作成やSNS発信等、関心のない方の気づきにつながる情報発信
『植え付けられた価値観がある。』	すぐに価値観を変えることは難しいと思うが、こういう考え方もあるという新しい視点を知る機会を作る

4 話彩やの声を踏まえたアイデア・意見等

《地域づくり》

「話彩や」での声	声を踏まえたメンバーのアイデア・意見等
『若者が求めていることを聞いて考えてみたい。』	立場や価値観が違う人の声を聞くことでアンコンシャス・バイアスに気づきやすい。 自治会や公民館の長(高齢者)と若者との「話彩や」の実施
女性が動いても、地域で何か変わると思えない。黙っておく方がいいと思うこともある。(農業)	農業分野における女性の活躍により地域に変化のあったような事例紹介や意見交換の研修実施

《子育て・家庭》

「話彩や」での声	声を踏まえたメンバーのアイデア・意見等
『育児休業推進の動きはあるが目的や必要性への理解不足を感じる。』	当人を含め職場全体が正しい認識を持つことが重要。育児休業を取りやすい職場の雰囲気づくり、職場の雰囲気づくりサポート体制整備等の環境を整える
『子育ては夫婦でするものという意識が薄く、子育ては女性、仕事は男性という意識がまだ残っている。』	子育て前の夫婦のコミュニケーション機会の創出、夫婦向けセミナー、夫婦で育休取得した人の声の発信

4 話彩やの声を踏まえたアイデア・意見等

《働き方・職場》

「話彩や」での声	声を踏まえたメンバーのアイデア・意見等
『古い考え方が根強い職場は多いと思う。』 『アンコンシャス・バイアスについて知識を職場で深める必要がある。特に年配管理職。』	職場向けの研修や意見交換・コミュニケーション機会創出(企業上層部と若者の話す会・交流機会)等による世代間ギャップの解消
『働きたくても、働きたいサイズの仕事が見つからない。』	まずは働きたい人に情報を届けることが大切。雇う側・雇われる側双方にとって情報のやり取りが楽になればより良い。

《教育・学校》

「話彩や」での声	声を踏まえたメンバーのアイデア・意見等
『「男は仕事」「女は家庭」で育った。家庭教育や環境の影響が大きいので、小さい頃から男女共同参画について教育するのが大事だと思う。』	「親から子どもへ」だけでなく、「子どもから親へ」の方向での意識変容も有効。 (アンコンシャス・バイアス川柳の結果を小学校に配布し子どもから親に届ける等)

5 話彩やの声を踏まえたアイデア等(全体を通じた方向性)

性別によるモヤモヤ事例は、家庭・地域・職場等 様々な場面で存在
モヤモヤを解消し、誰もが働きやすく暮らしやすい環境にするためには

アンコン等に「気づくこと」、「話し合うこと」が大切の声

【キーワード】#気づき、#新しい視点、#立場や価値観が違う人の声、#正しい認識、#コミュニケーション

そのために

気づいていない人、無関心層に向けた情報発信

・啓発ツール・グッズの作成活用や各種メディアや媒体による発信

家庭・地域・職場など様々な場面での対話・理解の促進

・話し合いの輪、学び、理解を広げる場や機会の提供

さらに

一人一人の気づき・対話・理解とともに行動の広がり・浸透

・各地域や分野・団体等における自主的な行動や取組の波及を促進

13

6 その他チーム活動

■FM鳥取『ラジオで一緒に話彩や』

話彩やメンバーがラジオ出演し、話彩やの声やモヤモヤ解消策の紹介など、ラジオで話彩やを行い、アンコンシャス・バイアスへの気づきや「話彩や」の輪を拡大中！



■SNSによる情報発信の拡散

みんなで話彩やの開催やよりん彩SNS情報の拡散など、誰もが働きやすく暮らしやすい鳥取県に向けた取組応援



14

7 チーム活動を通じたメンバーの感想

○話彩や活動を通して、自分が思っていた以上に多くの方がもやもやを感じながら生活されておられると気づいた。
○このことから、今後も色々な価値観があることを多くの方に知って頂くという面でも活動を続けていく必要があると思った。

○たくさんの方とお話する中で、自分が思っていた以上にアンコンシャス・バイアスが身近なものであるということに気付いた。
○話彩やの活動は自分自身の考え方を広げる良いきっかけになった。この活動がさらに広まっていくことを願っている。

○話彩やの活動を通じて、1人1人がアンコンシャスバイアスに気づくには、家族や職場、学校、地域など様々な場での「対話」が重要だと感じた。
○対話を通じて、実は自分自身にももやもやがあったことや、自分自身にもアンコンシャスバイアスがあったことなど、「気づき」が生まれるのではないかと。

○活動前から「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っていたが、具体的にどのような事例が該当するのかを知らなかった。
○そのため、活動を通じて自身の知見を広げるとともに、自身の言動によって相手に不快な思いをさせないよう想像する必要があると感じた。

○話彩やで話をする中で、文字として『アンコンシャスバイアスがある』ということではなく、実感・体感することで、知る以上に理解することができた。
○現在、さまざまな学生活動に参加しているのでそういった機会を活かして少しずつ考え方やきっかけを提供していけたらと思う。

○自分自身、今まで生きてきた職場や地域、所属組織、育ってきた環境などによって、知らず知らずのうちに視野が狭まっていたり、感覚が固執してしまっているという事に気づくことができた。
○自分とは異なる世代の方の時代背景や、育った環境などを否定せず、互いを認めながら『話彩や』が展開されたことに、『話彩や』が開催された意義を感じました。

15

話彩やの声の反映

「みんなで話彩や」で集めた声を踏まえて、県男女協働未来創造本部で施策化(R7年9月補正予算)

■自治会等の支援補助金

・「女性の自治会長が少ない。地域みんなで考えることが必要。」
・「多様な考え方を持った人、学び・知識が必要。」
・「女性参画等のケーススタディを広く紹介するのがよい。」



自治会等での男女共同参画の推進、多様な担い手が活躍できる環境づくりのため、女性役員の増加に取り組む自治会等の団体の活動を支援する補助金を創設。(R7年10月)



■アンコンシャス・バイアス川柳コンテスト

・「性的役割分担は「対話」により納得し合うことが大切。」
・「振り返り」や「気づき」のきっかけづくりが有効。」
・「アンコンシャス・バイアスや役割分担意識に気付く場所や機会を増やしてほしい。」



家庭や地域・職場等の集まりが増える年末年始等に、家庭や地域・職場等での「対話」の活性化と、アンコン等への「振り返り」、「気づき」を促すため、性別によるアンコンシャス・バイアスに関する川柳コンテストを実施。(R7年12月～R8年1月)



16